

事業報告概要書（公表版）

1 基本情報						
施設名又はグループ名			指定管理者名及び団体概要			
狭山丘陵グループ			(指定管理者名) 狭山丘陵パートナーズ			
指定期間			(団体の概要) 西武造園株式会社、NPO法人 NPO birth、一般社団法人 防災教育普及協会、ミズノスポーツサービス株式会社			
R5.4.1 ～ R 10.3.31 (5年間)						
2 施設名		3 収支(単位:千円)				
狭山公園 狭山・境緑道 八国山緑地 東大和公園 野山北・六道山公園 中藤公園			令和7年度	令和6年度	令和5年度	公園別支出額
	項目		金額	金額	金額	
	収入 計		1,130,108	866,902	637,372	狭山公園 646,400
	内 訳	指定管理料	1,130,108	866,902	637,372	狭山・境緑道 189,820
		利用料金				八国山緑地 22,907
		その他収入				東大和公園 8,590
	支出 計		1,130,108	856,760	637,372	野山北・六道山公園 260,257
	収支差		0	10,142	0	中藤公園 2,134
4 管理運営の概要						
<p>狭山丘陵パートナーズでは、これまで里山の持つポテンシャルを引き出しながら、持続可能な社会に貢献する公園づくり「サステナブルアクション」を進め、狭山丘陵の広域的な連携推進や都民協働による里山風景の保全などの成果をあげてきた。今期は各地で相次ぐ倒木事故を未然に防ぐべく、樹木点検、診断、剪定、伐採を重点的に数多く実施した。また、パートナーズ3グループ合同で「Park Innovation Labo」を初開催。官民連携で都立公園の新しい可能性を切り拓き、地域課題を解決するきっかけを生む場とした。他にも年間を通じた田んぼの活動や都県境を越えた広域連携イベントの開催など、具体的な成果を出すためのアクションを数多く実践した。</p>						
5 管理状況						
①維持管理						
<p>【1.適切な維持管理を行うための取り組み】直営での日常巡回、ナラ枯れ等の確認、専門家による施設点検を全公園で実施。また緊急樹木点検を重点実施した。パークモニタリングアプリを活用し不具合や危険箇所の早期対応に努め、安全性の確保を行うと共に計画的な補修・修繕・改修で予防保全を進めた。</p> <p>【2.事故、自然災害及び感染症などの社会課題への対策・対処するための取組】本部と管理所スタッフで園内パトロールを行うパークスキャンや本部による安全パトロール等を活用し、安全の確保と管理品質の向上に努めた。また、防災訓練や学習会、初期消火訓練、安全管理講習などを通じて災害時等の対策を進めた。事故発生時は迅速な対応に努め、影響を最小限に留めた。</p> <p>【3.施設補修、施設改良に関する要望への取組】様々な形で挙がる利用者の意見をパークモニタリングアプリで収集。現地を確認し内容を正確に把握した上で共有した。剪定や修繕等が必要なものは計画を立て迅速に対応し、都民要望対応を進めた。</p> <p>【4.丘陵地特性を踏まえた植生管理】公園ボランティアや地域団体と連携して里山保全の活動を実施した。各部署が連携して調査や保全の計画をたて作業を実施し、ヤナギスブタなど貴重な植物の復活や再生、里山に生息する生きものの保全につなげた。また、草刈や萌芽更新のための伐採、CSR活動でのコナラ実生植樹なども実施し、丘陵地の適正な管理を推進した。</p> <p>【5.公園が持つ緑の特性を一層引き出すための新たな維持管理の考え方】本部と公園スタッフでランドスケープチェックを行い、新たな見どころづくりを進めた。また、公園ボランティア、地域の団体、学校等と連携し外来種駆除や里山保全の活動を協働で進めた。脱炭素の取組としてバッテリー式の草刈機等を使用し、環境と作業時の騒音に配慮した。</p>						
②利用者への対応						
<p>【1.質の高いサービスを提供するための取組】パートナーズ3グループ合同で樹木点検講習、クビアカツヤカミキリの研修を開催。担当以外の部署も参加し3グループ全体で理解を深めた。</p> <p>【2.利用者要望の把握方法と管理業務への反映方法】日々の意見情報をパークモニタリングアプリを活用してデータベース化し、業務日誌や月報などへ反映。意見情報管理のDX化を進めた。また意見情報の対応状況については対応漏れの発生を防ぐため、月次で再確認し確実に対応した。</p> <p>【3.都民協働や地域コミュニティとの連携による公園の魅力や地域の価値の向上につながる取組】パートナーズ3グループ合同で「Park Innovation Labo」を初開催。官民連携で都立公園の新しい可能性を切り拓き、地域課題を解決するきっかけを生む場とした。狭山公園では都県境を越えた広域連携による大型イベントを春と秋に開催。野山北・六道山公園では里山民家を中心とした都民協働を年間を通して数多く実施。今年度は宮野入保全活用計画を大幅に見直し、次年度からの公園ボランティア活動の指針とするべく、多数の地域コミュニティの意見を反映させたマニュアルを作成した。</p> <p>【4.公園の魅力向上と利用促進を図るための自主事業等の提案】狭山丘陵の自然環境保全の取組と地域の魅力を発信するSayama Hills Dayの開催、自然の魅力を伝えるガイドウォークなど丘陵全体の魅力を伝える事業を進めた。</p> <p>【5.東京2020 大会レガシーを継承する取組】スポーツコーディネーターを配置し、各公園でのスポーツ教室を通じてスポーツに親しむ機会、健康づくりにつなげた。また、ユニバーサル研修を通じて、障害を抱えた方の対応等について学習。</p>						
6 利用者アンケート結果						
実施方法：						
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応	
狭山公園	4.5	4.5	4.4	4.4	4.7	
狭山・境緑道	4.3	4.1	4.3	4.3	4.3	
八国山緑地	4.3	4.1	4.2	4.2	4.4	
東大和公園	4.1	4.0	3.9	4.0	4.3	
野山北・六道山公園	4.6	4.5	4.6	4.5	4.6	
中藤公園	4.0	4.1	4.1	3.8	4.4	
7 入園者数の状況(単位:人)						
施設名	当該年度	分析				
狭山公園	549,897	イベント時は晴天に恵まれた。春秋の行楽期は賑わいを見せた。				
狭山・境緑道	1,584,912	生活道路として多くの方に利用されている。				
八国山緑地	171,189	ツリーイング、走り方教室などイベントが賑わった。日常の利用者も増加している。				
東大和公園	42,389	昨年比と同等の入園者数となった。				
野山北・六道山公園	180,391	里山民家を中心にイベントやボランティア活動が賑わった。				
中藤公園	798	未開園の部分が多いが、今後の開園状況により変化があると見込まれる。				
合 計	2,529,576					



都立狭山・境緑道

所在地：西東京市、小平市、
東村山市、東大和市
開園面積：8.4ha

テーマ みんなでつなぐグリーン&ガーデンロード

＜目標と取組方針（狭山・境緑道マネジメントプラン）より＞

- ・安全・快適な公園づくりを行う都立公園
- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・独自の魅力づくりに取り組む都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1

安全確保と新たな緑の育成に向けた取り組み

■ 狭山・境緑道は開園から45年以上が経ち、大径木化した樹木が増えている。また、隣接する民有地が宅地となり、樹木のすぐそばに住宅が建つなど、緑道を取り巻く状況が大きく変わり、安全と緑確保の両立が新たな課題となっている。



緑道に接して建つ住宅



大径木化した樹木

倒木事故を受け点検と危険木伐採を実施、近隣住民の不安を解消

■ 緑道に沿って住宅が並ぶエリアで倒木事故が発生。原因を調査したところ、根元の腐朽が原因と判明。それを踏まえ周辺の大径木も調査し、同様の症状が見られた樹木について伐採と強剪定を実施。



倒木状況



根元の腐朽を確認



腐朽を確認した樹木



伐採と強剪定を実施

緑道全線での樹木点検を実施、処理沿進め緑道の安全を確保

- 全10.5km、約400本の樹木について点検を実施。倒木事故を踏まえ根元の状況も念を入れて確認。
- 点検で危険と判断した樹木約80本の伐採、約200本の剪定を実施。生活道路でもある緑道の安全を確保。



一部が枯れた樹木



剪定し風圧を軽減



通行人の安全を最優先で実施

植樹で新たな緑の育成も推進！

■ 伐採と並行し、日照や周辺環境など条件の揃う地点を選定し植樹を実施。次世代の緑育成に繋げた



伐採と並行し植樹の準備



緑道の未来を担う後継樹

2 快適性向上のための取組み

経年劣化による凸凹を路面改修で刷新！

■経年劣化による降雨時の水たまりで一部が歩きにくい状態となっていた。蓄積したデータを活用し、優先順位を付けて測量を実施。測量結果を基に路面の全面改修を行い、快適に歩きやすい緑道環境を整備した。



雨水による民地への土砂流出を防止！

■緑道の緑地部分が高いため、降雨時は園路と民地の畑に雨水が流れてくる構造となっていた。まずは畑側への雨水流出を抑えるため、境界に低めの土留めを設置することで、問題解消に繋がった。



3 地域住民と連携した魅力アップのための取組み

■「緑道ガーデンパートナー制度」により、適切な利用を促しながらの魅力的な緑道づくりを推進した。緑道に無許可で花壇をつくっている方々に専属のスタッフが丁寧な声かけを継続。ご納得いただいた上で31人の方に制度にご登録いただいた。



ニュースレター発行でコミュニケーションを強化！

■現地対応による関係構築を図るとともに、今年度初めて、ガーデンパートナーに向けてニュースレターを発行した。

■相談の多い日照条件に合わせた花選びの他、維持管理の取組み紹介や、外来植物への注意喚起などを掲載。気軽に楽しく読んでもらいつつ、公共空間の適正利用につながる内容とし、紙面を通してガーデンパートナーとのコミュニケーション強化を推進した！





都立 狭山公園

所在地: 東村山市、東大和市
開園面積: 23.5ha

テーマ 狭山丘陵の玄関口 ～人と出会う、自然と出会う、はじめの一步～

＜目標と取組方針(狭山公園マネジメントプランより)＞

- ・地震災害時への対応のため、防災機能を強化・充実した都立公園
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1

公園を起点とした官民連携の始動!。24社が参加!

■官民連携の基盤構築を目的に、武蔵野・狭山・多摩の3グループ合同で公園を舞台に、企業と地域の共創をカタチにする「Park Innovation Labo OPEN DAY」を初開催。

■まちづくり、建設、デザイン、食、教育、アウトドア等、多様な分野の企業24社32名が参加し、公園を軸とした新たな可能性を探る対話の場を創出した。

■基調講演、ワークショップ、交流会の3段階構成により、課題抽出からアイデア共有、ネットワーク形成までを一体的に実施し、双方向かつ実践的な意見交換を推進した。



公園の可能性を引き出す対話型ワークショップ



多様な視点が交差するアイデア共有



終了後は熱量あふれる個別交流や名刺交換

OPEN DAYからLABO(実証・実装)へ

今回のOPEN DAYで生まれたアイデアや出会いをもとに、公園で社会実験・実装を行うのが「Park Innovation Labo」。現在は、創出されたアイデアの具体化に向けた協議が進展しており、今後は実証・実装フェーズへと発展させることで、公園を起点とした新たな価値創出と地域課題の解決を目指す。

OPENDAY | 出会う
参加者同士がつながり
公園の可能性を探る

PARK INNOVATION LABO | ひらめく・試す(社会実験)
出会いから生まれたアイデアを、公園というフィールドで試す

社会へ広がる
公園を舞台にした挑戦が
まちの新しい風になる

2

地域特性を活かした多世代スポーツプログラムの推進

■幼児から80代のシニアまで幅広い世代が参加できるスポーツプログラムを実施。

■障害者スポーツ体験も含む「スポーツチャレンジキャラバン」や「親子スポーツ教室」「ノルディックウォーキング」など、多彩なプログラムを展開し、自然の中で体を動かす機会を提供した。

■ランニング利用の多い地域特性を踏まえ、「走り方教室」や「ランニングクリニック」を実施し、地域の利用実態に応じたプログラムとすることで、継続的な利用促進とスポーツへの関心向上につなげている。



はらっぱスポーツ教室



ノルディックウォーキング教室

3 都県境を越えた連携による狭山丘陵の魅力発信

来場者2.4倍！「第12回SAYAMA HILLS DAY」の開催

- 東京都・埼玉県にまたがる周辺7自治体および26主体と連携し、「第12回SAYAMA HILLS DAY」を開催した。
- 狭山丘陵の自然や保全活動を体験的に伝えるプログラム（動物はく製展示、薪割り体験、マルシェ、マウンテンバイク試乗等）を展開し、昨年比2.4倍の2,665名が来場した。
- 来場者アンケートでは、狭山丘陵への親しみ向上100%、再来園意欲100%を達成し、広域的な価値発信と来園促進に寄与した。



第12回SAYAMA HILLS DAY

親子で気軽に楽しめる！「さやまKIDS DAY」の開催

- 6自治体9団体と連携し、自然や狭山丘陵一帯の楽しみ方を紹介。パークレンジャーによる自然紹介プログラムや、狭山丘陵観光連携事業実行委員会（共催）による狭山丘陵の観光PRなど、親子で楽しめる10のコーナーを展開した。



さやまKIDS DAY ご当地キャラとの撮影会

4 次世代を担う人材育成と参画の促進

多様な主体による自然環境の再生

- ボランティア、学校と連携し、保全活動を推進。
- 外来種駆除やススキ原保全、湿地整備等を協働で実施し、自然環境の再生と活動基盤の強化につなげた。

環境を活かした自然体験の提供

- 0歳児から大人まで幅広い世代にプログラムを展開。
- 子育て支援センターとも連携、地域に開かれた自然体験の場に。

パークレンジャーを核としたプログラム展開と担い手育成

- 「さやまキッズレンジャー」プログラムを年間9回実施。外来種駆除や湿地整備など、実践的な活動を通じ自然への理解と主体性を育成。修了者はイベントでの解説などで活躍、次世代の担い手育成に繋がっている。



ボランティアとの湿地整備



高校との連携 はらっぱ整備



「さやまキッズレンジャー」で湿地保全



5 子どもの自然体験を支える拠点づくりの始動

「親子自然体験施設」の運営に向けた準備の推進

- 狭山公園管理事務所を、学習・展示・休憩機能を備えた「親子自然体験施設」としてリニューアルする整備が進められている。
- 本施設の円滑な移行と、効果的な運営が図られるよう、運営計画の検討や体制づくりを実施。

地域とつくる新拠点に向けた対話と機運づくり

- 子育て・教育・環境保全関係17団体28名が参加し、施設の活用・運営に関するパークミーティングを開催。
- ワークショップでは、施設でできることや関わり方についてアイデアを共有。子どもと自然をつなぐ拠点を地域とともに育てていく方向性を確認した。参加者同士の関係も生まれ、今後の協働による運営に向けた一歩となった。



令和8年度オープン予定の自然体験施設



都立 八国山緑地

所在地: 東村山市
開園面積: 37.1ha

テーマ 歴史・人・自然をつなげる里の道 ～古を思い、次世代へ伝える～

＜目標と取組方針(八国山緑地マネジメントプラン)より＞

- ・地震災害時への対応のため、防災機能を強化・充実した都立公園
- ・安全・快適な公園づくりを行う都立公園
- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・東京の水と緑の骨格軸の形成に寄与する都立公園
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1

適切な維持管理と魅力向上のための取組み

安心して過ごせる環境整備

■ 総合案内板を改修！

木製で腐朽が激しかった躯体9基を、耐久性があり長持ちするアルミ製に変更。以前の躯体は腐朽箇所を修繕しながら使用していたが、材の変更により長寿命化と維持管理の軽減に繋がった。また、必要な情報をわかりやすく伝えるため記載内容を整理し、来園者が目的地をすぐに理解できるように改善。



施工前



施工中



施工後

■ 主要な園路の柵改修を実施。腐朽しやすい木柵から耐久性の高い擬木柵へ変更。長寿命化に！



① 二つ池～尾根道 ロープ柵修繕



② 藤の宮口 ロープ柵修繕



③ 尾根道沿い 木柵修繕

ランドスケープチェックの結果を踏まえた維持管理

■ 実生木が茂った線路沿い斜面地の草刈を実施。ひだまり広場からの眺望を確保！



作業前



作業後

2

小学校と連携し、生物多様性向上の取組みを拡充！

連携7年目！ 湿地環境保全に加え、新たに雑木林の再生を開始！

■ 八国山の希少な湿生植物を復活させる「埋土種子発芽実験」を継続実施。湿地環境の保全を推進

隣接する北山小学校と連携した保全の取組みを実施。埋土種子実験で11種の湿生植物の発芽を確認。そのうち絶滅危惧地種は過去最多となる6種を記録！

実験後の泥を活用し、緑地内の池に朝場を創出。現地での発芽と生育を期待



夏の活動 発芽した湿生植物を調査と発表



絶滅危惧種 オオアブノメが発芽

■ 植樹と育苗による新たな雑木林再生の取組みをスタート！

雑木林の若返りを目指した更新伐採地にて、北山小学校との連携では初めてとなるコナラの植樹を実施！

八国山緑地で採集したドングリを苗木まで育てる活動も並行してスタート。都立公園の生物多様性向上を図るとともに、子ども達の地域の自然への学びを深め、関わることへの誇りを醸成

【生徒の感想】

- ・自然を守ることに誇りを感じた
- ・自然を守るためにはたくさんの時間がかかる



更新伐採エリアの伐採前と伐採後



秋の活動 コナラの植樹と育苗

3

里山環境を活かしたヘルシープログラムを展開！

様々なスポーツプログラムを「八国山スポーツDAY」として同日開催！

■ 多様なプログラムを同日開催し、ヘルシープログラムの取組をPR！

■ 18歳以上対象の「ノルディックウォーキング教室」、2～3歳児親子対象の「親子スポーツ教室」、幼児・小学生対象の「走り方教室」を実施し、体を動かすことの楽しさを伝える「健康づくりの場」を提供！



ノルディックウォーキング教室



親子スポーツ教室



走り方教室



都立 東大和公園

所在地: 東大和市
開園面積: 18.7ha

テーマ 雑木林博物館 ～雑木林のすばらしさを感じ、学び、育む～

<目標と取組方針(東大和公園マネジメントプラン)より>

- ・安全・快適な公園づくりを行う都立公園
- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・東京の水と緑の骨格軸の形成に寄与する都立公園
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1 各地で頻発する倒木事故を防ぐ取組として樹木点検研修を実施

狭山丘陵・武蔵野・多摩部の3パートナーズグループ合同で開催！全部署一丸となった取組！

パートナーズの樹木医3名が講師となり指導

■樹木の傾きや腐朽、特に注意が必要なキノコ(ベッコウダケ・コフキタケ・ナラタケモドキ)について、園地の切り株等で確認。キノコが発生する経緯などを学習。

3グループが一丸となり対応を検討！

■維持管理部以外の部門も参加したこと、3グループが一丸となり対応を検討したことにより、多様な視点での意見交換が成され、意識の向上に繋がった！



3グループ35人が研修に参加



実際に発生している子実体を確認



樹木の状態をチームで検証

2 アカマツ林の面積拡大を目指して、ノウハウを活かした整備を実施

過年度から継続しているアカマツ保全の取り組みによって、公園全体で約1,200本の実生が発芽生育中！
「アカマツ広場」にて、保全計画に基づいた整備作業を実施。今後のアカマツ林の面積拡大に期待！

過年度計画(2021年)

日照改善のためにアカマツ以外の樹木を伐採



伐採前



伐採後

明るい樹林環境に！

新たな保全計画の作成

アカマツ実生の発芽・成長の促進



下草刈り



地掻き(有機物層の除去)

3

来るといつも楽しめる、日常使いの公園づくり！

衛星公園における日常的な活用を広げるための取組みを推進。公園コンセプト「雑木林博物館」に基づき、協働による取り組みから健康づくりの場まで幅広く展開した。

日常的に来たくなる、明るく親しみやすい雑木林を協働で整備

■ 散策など雑木林に親しめる環境づくりを目指して、ボランティア活動で雑木林を整備。ボランティアの発案で今年度から活動を月2回に増やし、下草刈りや除伐を実施。

■ リンドウなどが開花、犬の散歩や散策で利用されるエリアに変化



活動17回、のべ82人が整備に参加！

「楽しかった！」から「いつもの遊び場」に繋げるプログラム展開

■ 今まで別日に実施していた3つのプログラムを「雑木林キッズデー！」として合同開催。アンケートでは「子どもが楽しいと言ってくれて幸せ」との声も！

● 未就学児を主な対象とした「秘密基地づくり」「落ち葉のお絵かき」など5つのセルフプログラムを展開。

● パークレンジャーが保全の取組みや自然についてビンゴカードを使って紹介！参加者全員が初来園！公園の周知に成果。

● 発生材を活用したエコスタックをボランティアと一緒に制作。落ち葉の中に集め、カブトムシの幼虫の観察スポットが完成！



ふだんの健康づくりに公園活用！60歳以上を対象とした健康プログラムを初実施！

■ 体を動かす習慣づけを促し「健康維持」や「フレイル予防」に繋げてもらう事を目的とした、シニア向けスポーツプログラム「ニコニコ健康体操」を初実施！

■ 地域の高齢者が集える場所や、健康づくりの場を提供。

公園でこんなこともできるのね！次も参加したい！





都立 野山北・六道山公園

所在地: 武蔵村山市、
瑞穂町
開園面積: 204ha

テーマ なつかしいようで未来につながる公園

～豊かな自然を活かし、みんなで学び、育てる～

＜目標と取組方針(野山北・六道山公園マネジメントプラン)より＞

- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・東京の水と緑の骨格軸の形成に寄与する都立公園
- ・多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1

環境保全の気運を踏まえた「保全活用計画」の再編

ナラ枯れの進行や社会環境の変化(ネイチャーポジティブや30by30等)を背景に、従来の保全・活用の枠組みでは対応しきれない課題が顕在化。また、多様な主体の関わりが広がる中で、方向性の共有と役割分担の明確化が求められていた。

協働による新たな管理運営の基盤づくり

■ これらをふまえ、「宮野入保全活用計画」の再編に着手。宮野入の保全活用に関わるボランティアや協議会メンバーと意見交換を実施(年4回)。協働により再編作業を進めた。協議を通じて合意形成を図り、「誰が・どのように関わるか」を整理し、協働による管理運営の基盤を構築した。

■ 「宮野入保全活用計画」は、ボランティア・市民・管理者に共通する“行動の拠り所”として位置づけ、今後の里山保全を支える中核的な指針となるものである。今後はこの計画をもとに保全活用を推進していく。



2

里山環境の再生と絶滅危惧種の保全による生物多様性の向上

乾燥化やナラ枯れによって失われた湿地・樹林環境を再生し、より多くの生き物が生息できる環境をつくるため、専門機関や企業と連携した保全の強化に取り組んだ。

① 企業連携による湿地再生と生物多様性の向上

- 企業との連携により湿地環境を創出・拡大(4箇所、12㎡)。多くの絶滅危惧種が確認されるなど、生物多様性が大幅に向上。
- 雑木林の再生(草刈りや外来種の駆除)にも取り組み、ナラ枯れにより失われたコナラ林の回復を企業と共に推進。

確認された絶滅危惧種(一部)



ヤマアカガエル



ハラビロトンボ



ミズナラ

計12種の絶滅危惧種を確認！



② 専門機関との連携による絶滅危惧種の保全強化

- 湿地再生の取り組みによって2023年に復活した「ヤナギスプタ」の絶滅リスクの低減を目的に大型水槽を用いた域外保全を開始。さらに、現地で発芽したヤナギスプタ10株を「神代植物公園植物多様性センター」に譲渡し、公園の枠を超えた域外保全に着手。
- 2つの拠点で、ヤナギスプタの開花・種子の回収に成功。絶滅リスクの低減に向けて大きく前進した。



3

生物多様性と魅力創出を両立する維持管理の推進

広大な園内における安全かつ効率的な維持管理を基盤とし、ドローンやGIS等を活用した広域的な樹木管理や巡回管理を継続的に実施している。これら安全安心な維持管理に加え以下取組にも注力した。

生物多様性に配慮した見どころの創出

■ 直営作業によるウバユリ群生地の整備や、下草刈りによるキツネノカミソリ群落の調整など、見どころとなる植物を意識した管理を実施。さらに広報と連携し、見どころウィークを展開することで、自然の豊かさや生物多様性の価値を来園者に伝える機会を創出した。

希少種保全と環境負荷低減を両立した維持管理

■ 特に宮野入地区においては希少種に配慮した植物管理を徹底。さらに、ヤギによる除草など環境負荷低減にも配慮した手法を導入した。



4

参加から担い手へつなげる段階的な参画促進

「楽しむ・学ぶ・行動する」という段階的な参加のステップを軸に、パークコーディネーターが中心となって多様な主体をつなぎ、体験から継続的な参画へと導く協働の仕組みを構築している。

【楽しむ】夜間プログラムによる新たな参加層の創出

■ 「楽しむ」機会としては、季節イベントや里山体験などを実施し、年間5,000人以上が参加。
■ 「さとまナイトピクニック」では、夜の里山民家を拠点にアウトドア空間を創出し、昆虫観察や囲炉裏体験、光の演出などを実施。また「パークレンジャーによる夜の観察会」も実施。昼間とは異なる公園の魅力を体験する機会を提供した。



【学ぶ】実践的な学びによる担い手育成の推進

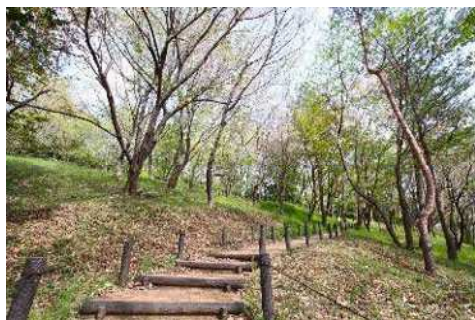
■ 「学ぶ」機会としては、年間を通じた田んぼ体験プログラム等を実施し、のべ177名が参加するなど継続的な学びの機会を提供した。
■ 雑木林マイスター講座では、講座構成やテキストをリニューアルし、現代の里山管理に対応した知識・技術の習得機会を創出。里山保全を担う人材育成の強化につなげた。



【行動する】多様な主体の参画による活動の拡大

■ 「行動する」機会としては、年間を通じて延べ5545名が活動に参加し、里山保全を支える担い手の裾野が拡大。
■ 企業・団体・学校など多様な主体が計11団体・1774名参加し、活動の広がりや連携の深化につながった。
■ 公園ボランティアは329名が登録し、年間のべ3771名が活動。17種類以上の活動を多世代で展開。2021年度から取組んできた登録のウェブ化に加え、歳時記のデザイン刷新やSNSによる活動の見える化により、参加しやすい環境づくりとイメージ向上を図った。
■ 多様な主体が出会い・関わるコミュニティの場として機能するとともに、ネイチャーポジティブの推進など社会課題の解決に資する協働の場としての役割を発揮している。





都立 中藤公園

所在地: 武蔵村山市
開園面積: 4.3ha

テーマ 狭山丘陵の緑の連続性を確保しつつ里山の歴史を引き継いでいく場

＜目標と取組方針(中藤公園マネジメントプランより)＞

- ・安全・快適な公園づくりを行う都立公園
- ・水と緑のネットワークを形成する都立公園
- ・東京の水と緑の骨格軸の形成に寄与する都立公園
- ・自然とふれあえる場となる都立公園
- ・子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園
- ・都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

1

開園の進む中藤公園で創意工夫を凝らした維持管理の取組み

機材の電動化による作業者の安全と脱炭素への取組を推進！

- 中藤公園の外周部は地形の特性や隣接する住宅地のため、高所作業車を作業場所近くに停めることが困難である。そのため、伐採作業時の運搬による体力消耗など作業者への負担が大きく危険を伴うことから、負担軽減の方法について協力会社と協議をした。
- 伐採した木を吊り上下へ移動させる「ウインチ」は、主にエンジン式かハンドル手回し式などあるが、エンジン式よりも軽量で、かつハンドル式より負担の少ない「充電式アングルドリル」を使用した。また、伐採後の枝処理や剪定に使用するハサミ・ノコギリも充電式の電動タイプを取り入れ、作業者の労力軽減を図った。
- 今後もCO₂の削減など、人と環境へ配慮した維持管理作業を実現している。



作業者に高い集中力が求められるツリークライミング
伐採で電動ウインチを使用した様子



高枝切ハサミや剪定ハサミも電動化することで作業者の負担が軽減された



ランドスケープチェックの結果を基に直営で修繕を加速！中藤の魅力UPへ！

- 本部スタッフと現場直営スタッフによる複数の目で景観向上や魅力発掘に繋げるための巡視を行う「ランドスケープチェック」を実施。開園エリアが分散している中藤公園の魅力をどう出していくかを皆で協議した。
- 管理所のない中藤公園で情報発信に必要不可欠となる掲示板の更新、地域の歴史・文化を伝えるために重要なデイドラの井戸周辺を整備。

中藤公園は
R8年
開園10周年！



視認性を重視した大きな掲示板を設置し、公園情報をアピール



実生木の除去、草刈り、剪定により、井戸周りの景観が向上

2

公園の自然と地域の魅力を堪能しながら健康増進！

■ 公園の地形と自然環境、多彩な地域の歴史を活かし、「レンジャーガイド付きノルディックウォーキング」を初開催した。

■ 園内外約3kmのロングコースを歩行。スポーツコーディネーターによるレクチャーで正しくポールを使い、起伏のある園内も足腰の疲労を軽減！歩く楽しさを伝え普段の健康づくりに寄与した。

■ 紅葉を迎えたモミジ広場や野鳥など、自然の見どころをパークレンジャーが紹介。狭山丘陵の地形と集落の暮らしを伝えるデイダラの井戸、貯水池建設の歴史を伝える軽便鉄道の路線跡など地域の魅力も満載。



紅葉のピークを迎えたモミジ広場



スポーツコーディネーターのレクチャー



ポールを使って園内を歩く



パークレンジャーによるガイド

3

ナラ枯れ後の雑木林環境の再生と普及啓発を推進！

ナラ枯れ後の樹林地管理の一環として、伐採をしたエリアでコナラの植樹を実施。近隣住民や市民団体のメンバーと約60本の実生の移植を行い、協働による雑木林環境の再生と普及啓発を推進！



自然環境保全部スタッフによる説明



丁寧に苗を植え付け、水もたっぷりあげる



■ 日照条件、作業のしやすさの他、将来に公園管理所ができた際のアクセスなどの条件を踏まえエリアを選定。ナラ枯れ伐採後のコナラ林再生のため公園で育苗していた苗を植樹。

■ 自然環境保全部のスタッフがコナラ林保全の意義を説明。パークレンジャーによるガイドも行い、公園の見どころや季節の自然を紹介し公園の魅力も発信した。



達成感あふれる参加者